

誕生日は感謝する日

左下の写真は、あるクラスの今朝の黒板を写したものです。生徒に向けた教師のメッセージではなく、教師に向けた生徒のメッセージやイラストが書かれています。昨日誕生日を迎えた担任を祝う言葉がちりばめられています。誕生日から一日遅れても、祝ってくれたという事実がうれしいものです。生徒と担任の素敵な関係が築かれている証ですね。

誕生日と言えば、ケーキを食べて、プレゼントをもらって、というように、誕生日を迎えた人にスポットが当たり、周りに祝福を受けるというイメージがあります。確かに、その人が「生」を受けたことは喜ばしいことですからね。これからもますます健康で頑張っているという励ましの意味でも、祝うべきことだと私も思います。その一方で、次のようなことも思っています。

誕生日は、「祝ってもらおう日」であると共に、「親に感謝する日」です。このように考えるようになったのは、自分が親になってからです。親の気もちはわかるようになかなかわからないもの。親という立場に立って初めて実感できると言ってもよいでしょう。

この世には、祝福を受けずに生まれてくる子はいません。誰もが祝福を受けて誕生します。私には三人の息子がいますが、生まれた時には大きな感動をそれぞれに覚えました。同時に、それは責任の裏返し。一人前にするために、親が何としても守り育てなければと強く決意しました。

我が家は男の子ばかりでしたので、幼い頃はケガが絶えませんでした。ジャングルジムから落ちて額を切ったり、転がって腕を骨折したり……園や学校から電話がかかってくるたびにドキドキしていました。中高生になっても、仲間とうまくやっているだろうか、厳しい練習に耐えられるだろうかと心配が絶えませんでした。そして、全買大人になった今でも、帰りが遅いと、「大丈夫かな。車の中で眠くなってないかな」と落ち着かない時を過ごしています。

皆さんの親も同じですよ。仕事に頑張る一方で、常に我が子への心配しながら過ごしてみえるはずですよ。親というのは、そういう毎日の繰り返しで、我が子の健康や成長を常に見守っているのです。

自分が誕生日を迎えることができるのは、生んでくれた親、守り育ててくれた親がいるからです。喧嘩したり愚痴を言ったりすることもありますが、奥深いところに脈々と流れているのです。気恥ずかしいかもしれませんが、誕生日を迎えたら、親に「ありがとう」と言ってみてはいかがですか。「おめでとう」と同じくらい尊い言葉ですよ。

(十一月二日 記)

